

# めぐみイエス・キリスト教会

2018年12月9日(日)第二主日アドベント礼拝  
週報「通算第435号」



## 2018年標題聖句

### 使徒の働き27章22節～26節

《「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、命を失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。』》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～6時45分
聖書研究・祈祷会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年12月9日(第二アドベント礼拝)

第一礼拝 午前10時～11時

第二礼拝 午後6時～7時

司会(奏楽) 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

### ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌75 「神の御子は」 p. 102

【交読文】 No.23 詩篇第66篇 p. 897

【賛美Ⅱ】 新聖歌82 「牧人羊を」 p. 112

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.1 「ビジョン」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書17章1節～2節(新約p. 197上段)

【祈 禱】

【説 教】 《時が来ました》

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌77 「きよしこの夜」 p105

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ※本日の聖書箇所【ヨハネの福音書17章1節～2節】

17:1 イエスはこれらのことを話してから、目を天に向けて、言われた。「父よ。時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現わすために、子の栄光を現わしてください。

17:2 それは子が、あなたからいただいたすべての者に、永遠のいのちを与えるため、あなたは、すべての人を支配する権威を子にお与えになったからです。」

## ●ポイント1 「時」とは？その一（ユダの裏切りの時）

### ※マタイの福音書26章44節～47節「ゲッセマネ①」（新約p.52上段）

26:44 イエスは、またも彼らを置いて行かれ、もう一度同じことをくり返して三度目の祈りをされた。

26:45 それから、イエスは弟子たちのところに来て言われた。「まだ眠って休んでいるのですか。見なさい。時が来ました。人の子は罪人たちの手に渡されるのです。」

26:46 立ちなさい。さあ、行くのです。見なさい。私を裏切る者が近づきました。」

26:47 イエスがまだ話しておられるうちに、見よ、十二弟子のひとりであるユダがやって来た。剣や棒を手にした大ぜいの群衆も一緒であった。群衆はみな、祭司長、民の長老たちから差し向けられたものであった。

## ●ポイント2 「時」とは？その二（悪魔と暗やみの時）

### ※ルカの福音書22章47節～53節「ゲッセマネ②」（新約p.150上段）

### ※エペソ人への手紙6章12節「クリスチャンの真の敵」（新約p.348下段）

6:12 私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。

## ●ポイント3 「時」とは？その三（主イエス様が栄光を受けられる時）

### ※第I ペテロ1章21節「信仰と希望は神に」（新約p.416上段）

1:21 あなたがたは、死者の中からこのキリストをよみがえらせて彼に栄光を与えられた神を、キリストによって信じる人々です。このようにして、あなたがたの信仰と希望は神にかかっているのです。

### ※ヨハネの福音書1章1節～2節及び14節「言葉について」(新約p.157上段)

1:1 初めに、言葉があった。言葉は神と共にあった。言葉は神であった。

1:2 この方は、初めに神と共におられた。

1:14 言葉は人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

## ◎先週のメッセージの概要【勇敢でありなさい】

《「私がこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたが私にあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。私はすでに世に勝ったのです。」と言われ、ここでイエス様は、過越の最後の晩餐における弟子たちへのメッセージを終えられました。

今回は、特にこの最後の締めくくりの言葉について考えて行きます。

まず、「私にあって平安を持つため」ですが、イエス様の三度にもおよぶ受難予告によって、また彼らの中に裏切り者がいることから、彼らは確かに不安の中にいました。しかし、この時には、まだ主は共にいて下さったのです。

やがて彼らには、どん底まで落とされる時が来ます。その時に備えての預言と励ましではありません。イエス様が昇天された後のことを指しています。

少し前にも、イエス様はこのように、弟子たちに預言されました。

「私は、あなたがたに平安を残します。私は、あなたがたに私の平安を与えます。私があなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」と。

それでは、「世が与える平安」とは違う、「私の平安」とは何でしょうか。

かつて神様は、モーゼの後継者、ヌンの子ヨシュアに、こう語られました。

「あなたの一生の間、誰ひとりとしてあなたの前に立ちはだかる者はいない。私は、モーゼと共にいた様に、あなたと共にいよう。私はあなたに命じたではないか。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、主が、あなたの行く所どこにでも、あなたと共にあるから。」

この時ヨシュアは、不安を抱き、恐れおののいていたのです。ここに「平安」の奥義が語られています。それは、主が共にいて下さることなのです。

私たち、主イエス様を信じ従う者には、この世にあっては艱難があります。しかし、決して私たちは見捨てられません。孤児にはされません。この世界を創造されたお方、主イエス・キリストがいつも共にいて下さるのです。だからこそ私たちは、主にあって、勇敢であるべきなのです。恐れてはなりません。》

## ◎お知らせ

※次回の礼拝は、12月16日(日)です。通常通り、第一礼拝は午前10時から、そして第二礼拝は午後6時から行ないます。次回の祈祷会は、12月12日(水)午後6時15分からです。なお12月30日(日)の礼拝はお休みします。

